
研究活動報告

復旦大学日本研究センター第26回年次国際シンポジウム

2016年11月5・6日に、中国・上海市の復旦大学日本研究センターで、「日本の社会保障制度及び関連産業の発展」と題する第26回年次国際シンポジウムが開催された。日本国際交流基金の後援を受けたこのシンポジウムでは、中国側、日本側の研究者が、日本と中国における社会保障制度の概況、日本企業の中国展開、医療と介護制度、女性の活躍や高齢者の所得格差などについて報告を行った。筆者は『日本における人口高齢化とケア人材の国際移動』というタイトルで、今後2030年頃から爆発的に増える中国の高齢人口を念頭に、アジア全体の介護制度の充実が必要であることを訴えた。

上海は中国の中でも高齢化が進み、また介護制度も整備されてきている地域である。中国側のシンポジウム参加者には日本留学生やこれまで人口分野で日本との国際協力を行った人材など知日派も多く、上海を拠点とした日中の高齢化対策に関する協力はすでに一定の水準にあることが実感された。

(林 玲子 記)

シンガポールの人口高齢化及び国際人口移動の実態と その要因に関する資料収集

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）による研究事業「東アジア、ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として、11月6日から11月12日にかけてシンガポールに滞在し、国立図書館やシンガポール政府統計局、移民局等を訪問し最新の統計資料収集を行った。また、滞在中にシンガポール政府統計局でシンガポールにおける将来人口推計に関して研究報告を行ったほか、シンガポール大学アジア研究所移動クラスターの主催で行われた「アジア太平洋地域における若年層の人口移動」セミナーに出席し、専門家との意見交換を行った。いずれもシンガポールの人口高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関し社会・政治・経済・文化的変動について多面的な意見交換を行うとともに、統計調査データ・論文・報告書を含む貴重な資料を収集できた点で成果があった。

(菅 桂太 記)

日本人口学会2016年度第1回東日本地域部会

日本人口学会2016年度第1回東日本地域部会は、2016年11月20日（日）午後、札幌市立大学サテライトキャンパス（北海道札幌市）で開催された。以下の7つの報告があり、有意義な議論が交わされた。

1. 飯坂正弘（中央農業総合研究センター）..... 仮設住宅からの町内転居を考慮した大槌町の地区別将来人口
2. 丸山洋平（福井県立大学）..... 居住者の年齢分布に着目した住宅所有関係別将来住宅ストックの推計の試み